

函館市医療・介護連携推進協議会  
連携ルール作業部会 退院支援分科会 第5回会議

日時：平成30年3月8日（木）19：00～

場所：函館市医師会病院 5階講堂

【次第】

1 開 会

2 議 事

○報告事項

- (1) はこだて入退院支援連携ガイドの周知について（資料1）
- (2) はこだて入退院支援連携ガイドに係るアンケート調査報告について（資料2, 3）

○協議事項

- (1) アンケート調査結果について（資料3, 5）
- (2) はこだて入退院支援連携ガイドの見直しについて（資料3, 4, 5）
- (3) 今後の取組みについて

3 その他

- (1) 次回の部会日程について

4 閉 会

【配付資料】

- 1 説明会等一覧
- 2 アンケート調査用紙
- 3 アンケート集計結果
- 4 修正箇所
- 5 協議事項

**函館市医療・介護連携推進協議会 連携ルール作業部会  
退院支援分科会 第5回会議 出席者名簿**

※★…部会長および副部会長 ●…分科会長 ○…幹事

(敬称略)

分野	所属団体	連携ルール作業部会（退院支援分科会）	
		氏名	勤務先等
医療	公益社団法人 函館市医師会	(★部会長 恩村 宏樹) ※欠席	
		○佐藤 静	函館市医療・介護連携支援センター
	一般社団法人 函館歯科医師会	川村 曜補	カワムラ歯科クリニック
	一般社団法人 函館薬剤師会	高橋 正治郎	社会医療法人仁生会 西堀病院
	公益社団法人 北海道看護協会 道南南支部	白川 一美 ※欠席	医療法人社団 函館脳神経外科病院
	道南在宅ケア研究会	鈴木 幸子	社会福祉法人函館厚生院 函館五稜郭病院 医療総合サービスセンター 退院サポート室
	函館地域医療連携実務者協議会	奥山 ちどり	(★副部会長 亀谷 博志) 社会福祉法人函館厚生院 函館中央病院 総合医療支援センター 入退院支援室
一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会 南支部	岩城 朋美	医療法人道南勤労者医療協会 道南勤医協 函館稜北病院	
介護	函館市居宅介護支援事業所連絡協議会	高橋 淳史	指定居宅介護支援事業所 社会福祉法人函館共愛会 共愛会病院
	函館市地域包括支援センター連絡協議会	●分科会長 福島 久美子	函館市地域包括支援センター こん中央
	函館市訪問リハビリテーション連絡協議会	岩崎 祐介	通所リハビリテーション 医療法人道南勤労者医療協会 道南勤医協 函館稜北病院
	道南訪問看護ステーション連絡協議会	高橋 陽子	(★副部会長 保坂 明美) 訪問看護ステーション ケンゆのかわ
	道南地区老人福祉施設協議会	山石 卓弥	特別養護老人ホーム 社会福祉法人函館共愛会 愛泉寮

## 説明会等一覧

## (1) はこだて入退院支援連携ガイドの周知の取り組みについて

連携ガイドの説明会の開催や、各種の研修会等の場で函館市医療・介護連携支援センターの機能の説明と併せて周知を行ったほか、文書にて各関係機関に周知を行った。

## ① 説明会等による周知

- H 2 9 . 0 2 . 2 5 医療連携実務者向け説明会
- H 2 9 . 0 3 . 1 6 地域包括支援センター・居宅介護支援事業所向け説明会
- H 2 9 . 0 3 . 2 2 ~ 2 3 介護事業所向け説明会
- H 2 9 . 0 4 . 2 0 サービス付き高齢者向け住宅・有料老人ホーム向け  
研修会
- H 2 9 . 0 8 . 2 8 介護保険施設向け研修会(急変時対応)
- H 2 9 . 1 0 . 1 9 函館市医療・介護連携多職種中小規模研修会  
(介護関係者向け)
- H 2 9 . 1 0 . 3 0 函館市医療・介護連携多職種中小規模研修会  
(医療関係者向け)
- H 2 9 . 1 1 . 2 5 第3回函館市医療・介護連携多職種研修会
- H 2 9 . 1 2 . 0 2 道南訪問看護ステーション連絡協議会:情報共有ツール  
試験運用にあたっての説明会
- H 3 0 . 0 2 . 1 3 函館市医療・介護連携多職種中小規模研修会  
(医療関係者向け)
- H 3 0 . 0 2 . 2 6 函館市医療・介護連携多職種中小規模研修会  
(介護関係者向け)

## ② 文書による周知

- ・ 函館市医師会会員向け文書 1 9 8 件
- ・ 介護事業所(居宅系)向け文書 1 7 9 件
- ・ 介護事業所(施設・居住系)向け文書 1 6 1 件 計 5 3 8 件

函館市医療・介護連携支援センター行(FAX番号43-1199)

## 「はこだて入退院支援連携ガイド」に係わるアンケート調査

**貴所属機関等についてお聞きします ※所属する団体に○をお付け下さい**

団体名 ①医師会 ②歯科医師会 ③薬剤師会 ④看護連協 ⑤在宅ケア研究会 ⑥MSW協会  
 ⑦函医連協 ⑧居宅連協 ⑨包括連協 ⑩訪リハ連協 ⑪訪看連協 ⑫老施協  
 ⑬柔整師会 ⑭函鍼連

貴所属機関名等 名称 \_\_\_\_\_  
 電話番号 \_\_\_\_\_ ー \_\_\_\_\_ ご記入者名 \_\_\_\_\_

**はこだて入退院支援連携ガイドの活用について ※数字に○をお付け下さい**

(1) 貴所属機関等では、「はこだて入退院支援連携ガイド」(以下「連携ガイド」と表記)を  
 ご覧になったことがありますか。

① はい ② いいえ → 別紙1「連携ガイド」のご案内、を是非ご覧ください。

(2) (1)で「①はい」とお答えされた方にお伺いします。

ア 日常業務において「連携ガイド」を活用する機会がありますか。

① はい ② いいえ → 以上で質問は終了です。差し支えなければ理由をお聞かせ下さい。

イ どのような機会に活用していますか。

(例)入退院支援が必要な者が発生した場合の手引き、カンファレンス、研修など

ウ どのくらいの頻度でお使いですか。

① 頻繁に使用 ② 月に数回 ③ 年に数回

(3)「連携ガイド」の内容について、見直しが必要と思われますか。

① はい ② いいえ → 以上で質問は終了です。

どのような見直しが必要だと思われるか、ご意見をお聞かせ下さい。

アンケート調査へのご協力ありがとうございました。FAXでの返信にご協力をお願い致します。

## 「はこだて入退院支援連携ガイド」のご案内

函館市医療・介護連携推進協議会では、医療・介護サービスの両方を必要としている高齢者等について、入院から在宅への移行がスムーズに行われるよう、医療・介護関係者間の切れ目のない入退院支援の流れをまとめた『はこだて入退院支援連携ガイド』を作成し、平成29年4月から運用を開始しております。

このガイドは、全市的な視点で医療・介護双方の関係者の望ましい連携の形を可視化させたものであり、函館市医療・介護連携支援センターでは、その運用の標準化を目指し活用を推奨しております。

下記よりこのガイドの閲覧およびダウンロードができますので、ぜひご活用を検討下さいますようお願い申し上げます。

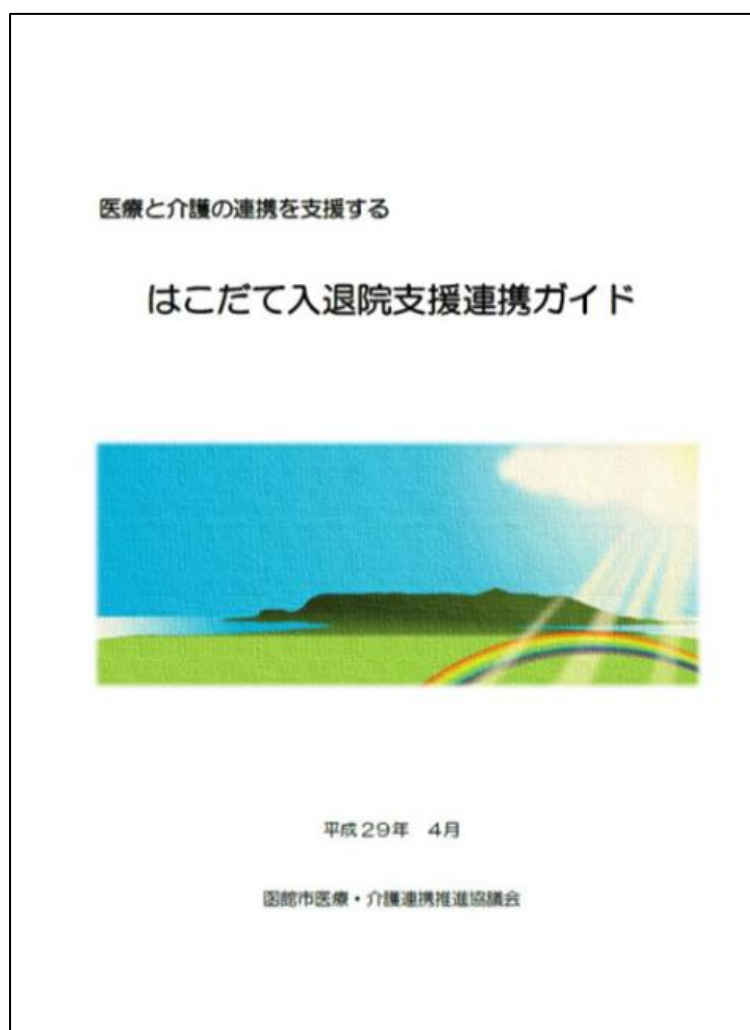
### ○函館市医療・介護連携支援センターホームページ

<https://hakodate-ikr.jp/>

### ○『はこだて入退院支援連携ガイド』

※ 上記センターホームページのトップページ最下段のダウンロード用のリンクにて簡単にご利用いただけます。

<https://hakodate-ikr.jp/assets/pdf/はこだて入退院支援連携ガイド.pdf>



## 「はこだて入退院支援連携ガイド」に係わるアンケート調査

## アンケート集計結果

## ○ 調査方法および調査期間

- ・ 調査方法 ～ 函館市医療・介護連携協議会および各部会・分科会に所属する医療・介護関係の各団体に対し、各団体傘下の会員等に対するアンケート調査の周知と実施を依頼し、回収した。
- ・ 調査期間 ～ 平成30年1月25日～平成30年2月9日

## ○ 設問ごとの集計結果

## 1. 貴所属機関等についてお聞きします N=185

	配布数	回収数	回収率
・ 医師会	171	65	38%
・ 歯科医師会	129	24	19%
・ 薬剤師会	13	13	100%
・ MSW協会	20	13	65%
・ 居宅連協	74	19	26%
・ 包括連協	10	9	90%
・ 訪リハ連協	14	6	43%
・ 訪看連協	20	8	40%
・ 老施協	21	11	52%
・ 柔整師会	61	11	18%
・ 函鍼連	42	6	14%
合計	575	185	32%

## 2. 貴所属機関等では、「はこだて入退院支援連携ガイド」(以下「連携ガイド」と表記)をご覧になったことがありますか N=185

	はい	いいえ
・ 医師会	27	38
・ 歯科医師会	8	16
・ 薬剤師会	6	7
・ MSW協会	13	0
・ 居宅連協	18	1
・ 包括連協	9	0
・ 訪リハ連協	4	2
・ 訪看連協	8	0
・ 老施協	10	1
・ 柔整師会	7	4
・ 函鍼連	5	1
合計	115	70

3. ア 日常業務において「連携ガイド」を活用する機会がありますか N=115

	はい	いいえ
・医師会	1	26
・歯科医師会	1	7
・薬剤師会	0	6
・MSW協会	4	9
・居宅連協	8	10
・包括連協	6	3
・訪リハ連協	1	3
・訪看連協	5	3
・老施協	3	7
・柔整師会	2	5
・函鍼連	2	3
合計	33	82

(アの設問で「いいえ」と答えた理由：任意記述)

- ・入退院支援に関わる機会がありませんでした。18件
- ・医療介護連携のとれている患者がほとんど。5件
- ・カンファレンスや研修などで使用させていただいています。4件
- ・まだ職員全体でしっかり確認できていないのが現状です。今年度中にそのような場を設定して、活用していきたいと考えています。3件
- ・ガイド完成時に関係部署で供覧させていただきましたが、日常業務では活用されていませんでした。(内容は良いと思います)2件
- ・今回読ませてもらったので今後活用検討します。3件
- ・直接医療介護連携支援センターに相談、問い合わせした方が分かりやすいし、情報共有もしやすいので…。2件
- ・今の所入退院支援に関与する患者さんの来院はありませんが、今後機会があれば活用させて頂きたいと思っています。2件
- ・今迄は独自に情報収集を行い他事業所と連携していた為、今後は連携ガイドも活用させていただき互いに十分な情報共有に努めたいと思います。
- ・退院前カンファレンスで知りたい情報は都度その場で質問し、実技指導・調整もお願いしている。
- ・そもそも誰が使うことを目的にされたのでしょうか。内容的には有資格者であれば、できなくてはならない内容と感じます。一般市民が見られるのであればわかりやすいと思います。

4. イ どのような機会に活用していますか（アの設問で「はい」と答えた者への設問）

（自由記述）

- ・医療，介護の連携システムの確認，社内での情報共有(研修)。9件
- ・入院時の情報収集等。5件
- ・退院時，実際の業務に役立つ内容になっており，活用させていただいています。4件
- ・退院後のサービス調整時等の参考としている。3件
- ・連絡連携が必要な際の再確認，研修での情報提供。2件
- ・今は関わっていないのが実態ですが，今後のために。患者さんへの情報提供のために。
- ・業務で迷ったとき・必要時参考にしている。利用者の入院時，動き等を確認。
- ・看護ステーション内に常備し，スタッフが目を通す，活用する。理解を深めるために使っています。利用者さんへ適切な説明ができると思います。
- ・治療の流れを確認。
- ・施設の流れを知りたい時に使っています。

5. ウ どのくらいの頻度でお使いですか N=33

- ・頻繁に使用 0
- ・月に数回 14
- ・年に数回 19

6. 「連携ガイド」の内容について，見直しが必要と思われますか N=62

- ・はい 7
- ・いいえ 55

（意見等：自由記述）

- ・現時点での見直しは必要ないと思いますが，定期的もしくは必要があれば都度，更新が必要と思います。3件
- ・施設一覧などあれば非常に便利と思われる。※特養，老健施設がどこなのかなど。
- ・P19 急変時の対応に関する体制については，よりよい連携と相互理解を目指して継続して話し合っていくことも必要かと思います。
- ・内容はいいと思いますが，文章が多すぎるかと思います。もう少し要点を箇条書き等で見せた方が自分はいいいと思いますが…。
- ・現行のガイドを本体として，入院時，退院時，緊急時など小冊子になっているものも併せてあると良いかと思います。自分にあてはまらないところは見て頂けない印象がありました。お忙しい中，大変なことと存じますが，今後とも宜しくお願い申し上げます。
- ・こまめに追加することで，ますます良いものになると思います。
- ・内容はよいと思います。沢山の関係者が活用してもっと医療と介護の現場が連携できるようになるとよいと思います。
- ・詳細を見ていないのでわかりません。
- ・参考にはなるが実際，実施されているか否かは課題であると思われる。

以上



## (2) 入院直後

### 医療機関



医師



看護師



医療ソーシャルワーカー



リハビリスタッフ



薬剤師

### ① スクリーニングを行う

医療機関では患者が入院した際、退院支援が必要（※）かどうかスクリーニング票を使用するなどして判断します。スクリーニングは、外来で入院が必要と判断した時に実施する場合がありますが、入院直後のできるだけ早い段階で対応することが多いです。

#### ※ 退院支援が必要な場合

- ① 再入院を繰り返している場合
- ② がんや難病のように、進行する疾患を抱えながら退院する場合
- ③ 退院後も医療管理や医療処置等が継続する場合
- ④ 入院前に比べ ADL（日常生活動作）が低下し、退院後の生活様式の再編が必要な場合
- ⑤ 独居あるいは家族と同居であっても、介護を十分に提供できない場合
- ⑥ 理解力や認知能力の低下が見受けられる場合
- ⑦ 虐待が疑われる場合 …など

### ② 必要な情報を集める、伝える

在宅生活時の状況を支援対象者や家族から十分に聞き取るとともに、支援対象者または家族の同意を得たうえで、かかりつけ医やケアマネジャー等の在宅・施設担当者からも情報収集を行います。基本的な情報を網羅できるよう作成している「はこだて医療・介護連携サマリー（情報共有ツール）」（※）の活用を推奨します。

また、情報収集に際しては、情報収集の窓口や希望する提供方法（FAX、電話、面談など）を明確にしておくことで、よりスムーズな情報収集が可能となります。

#### ※ はこだて医療・介護連携サマリー（情報共有ツール）

医療・介護関係者の連携のための情報共有ツール（P20参照）です。

基本的な情報を網羅する「基本ツール」と、詳細な医療情報等を記入する「応用ツール」等で構成されており、どの職種の方にも「分かりやすく」「見やすく」「連携しやすく」なるよう作成されたものです。関係者間の迅速な情報共有と積極的な多職種連携推進のために、医療・介護連携推進協議会ではこの様式の活用を推奨いたします（平成29年度中の運用を予定）。

●各機関において現在活用されている独自様式の利用を妨げるものではありません。



## ○協議事項

## (1) アンケート調査結果について (資料 3)

## ○ 協議の視点 (「アンケート調査 設問 3 ア」より)

入退院支援の場面で頻繁に関わる機会が多いと思われる職種 (MSW, ケアマネジャー, 包括職員, 訪問看護師, 施設職員) 58名のうち32名が, 活用機会が無いと回答している。

論点: 「使ってもらうための方法」「さらに使ってもらうための魅力付け」

## (2) はこだて入退院支援連携ガイドの見直しについて (資料 3, 4)

## ○ 協議の視点 (「アンケート調査 設問 6」より)

連携ガイドの内容についての見直しが必要と回答している方は62名のうち7名となっている。

論点: 修正箇所, 追加項目について

## (3) 今後の取組みについて

- ① 活用メール配信の継続 (5月と11月に予定)
- ② ガイド活用のモニタリングの継続 (1月～2月に予定)

論点: 今後の取組みについての提案